



愛川ふれあいの村1月の風景

## 平成25年 1月 自然のたより

愛川の冬本番がやってきました。朝夕は氷点下となり、かわせみ棟の池の水は氷で覆われています。しかし、その寒さに負けず、太陽の光を受けた木々は花芽を膨らませ、春をじっと待っています。

### <1月の自然のエピソード>

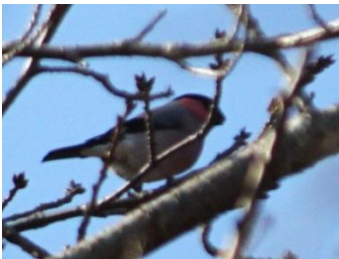
冬の間、目にする機会が減った昆虫は樹皮の間や、枯葉の中で息をひそめています。コナラの樹皮の間にはクヌギカメムシの卵がありました。サクラの幹のくぼみではヨコツナサシガメの幼虫が身を寄せ合っていました。他にも葉に寄生したり（虫こぶ）、暖かい繭まゆの中で過ごしたりと、昆虫たちは寒い冬を乗り越える様々な知恵を持っています。



クヌギカメムシの卵



ヨコツナサシガメの集団越冬



ウソのオス



ウソのメス



ルリビタキのオス



シロハラ



木の上のメジロの巣



シロダモハコブシ



繊維のダイヤモンドてんさん天蚕



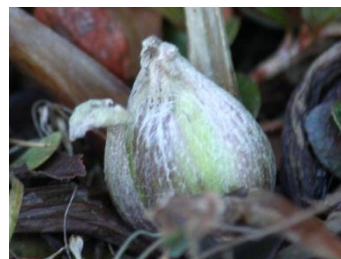
クスサンの繭スカシダワラ



オオイヌノフグリ



ロウバイの蕾



芽を出したフキノトウ



ビワの花